

168項目あり、活動性低下110項目の1.5倍、ダウン症で指摘された54項目のうち、心身機能低下は37項目、活動性低下は17項目（比2.1:1）、自閉症で指摘された10項目のうち、心身機能低下8項目、活動性低下2項目（比4:1）であった。

知的障害では、心身機能低下群120名（82.8%）、活動性低下群25名（17.3%）であり、ダウン症では心身機能低下群20名（71.4%）、活動性低下群8名（28.6%）であり、自閉症では心身機能低下群6名（75.0%）、活動性低下群2名（25.0%）であり、いずれも心身機能低下から退行がはじまったケースが多かった。心身機能低下群の現在の年齢（ ± 1 標準偏差）、利用開始の年齢、変化し始めた年齢は、知的障害の場合 36.2 ± 10.5 歳、 23.8 ± 9.2 歳、 31.8 ± 10.4 歳、ダウン症の場合 35.8 ± 8.5 歳、 21.6 ± 7.0 歳、 31.4 ± 8.7 歳、自閉症の場合 33.0 ± 2.7 歳、 22.2 ± 5.7 歳、 26.4 ± 4.1 歳であり、活動性低下群の現在の年齢（ ± 1 標準偏差）、利用開始の年齢、変化し始めた年齢は、知的障害の場合 35.2 ± 8.9 歳、 21.8 ± 10.5 歳、 28.0 ± 7.6 歳、ダウン症の場合 39.3 ± 12.6 歳、 23.9 ± 8.4 歳、 39.0 ± 12.5 歳、自閉症の場合 32.5 ± 10.6 歳、 17.5 ± 0.7 歳、 29.5 ± 6.4 歳であり、知的障害は機能低下群より活動性低下群の方が早く始まったのに対し、ダウン症、自閉症は、機能障害の方が早かった。

退行がみられる利用者1人当たりの項目数は、知的障害1.9項目（機能低下群1.9、活動性低下群2.0）、ダウン症1.9項目（機能低下群1.9、活動性低下群2.5）、自閉症1.3項目（機能低下群1.3、活動性低下群1.0）であった。

知的障害で多かった項目は、機能低下で

体重変動（25.5%）、内科疾患（14.5%）、目の症状（11.7%）、活動性低下では歩行不安定（22.1%）、動作緩慢（15.2%）、性格変化（6.9%）であった。ダウン症で多かった項目は、機能低下で内科疾患（25.0%）、目の症状（21.4%）、活動性低下では性格変化（14.3%）、動作緩慢（10.7%）、集中力低下（10.7%）であった。自閉症で多かった項目は、機能低下で体重変動（50.0%）、目の症状（25.0%）、活動性低下では問題行動（12.5%）、性格変化（12.5%）であった。

4)入所授産施設利用者の機能退行

退行例63名の内訳は、知的障害54名（85.7%）、ダウン症9名（14.3%）であり、自閉症例はいなかった。現在の年齢（ ± 1 標準偏差）、利用開始の年齢、変化し始めた年齢は、知的障害の場合 53.7 ± 10.9 歳、 37.1 ± 12.3 歳、 48.9 ± 9.9 歳であり、ダウン症の場合 44.8 ± 8.7 歳、 28.6 ± 11.2 歳、 41.5 ± 10.7 歳であり、ダウン症例で現在の年齢、施設利用開始の年齢が知的障害例よりもおよそ9歳早く、退行が7歳早かった。

退行の内容を心身機能低下と活動性低下の2つに大別すると、知的障害54名で指摘された全264項目のうち、心身機能低下が138項目、活動性低下が138項目と全く同数であった。ダウン症9名で指摘された25項目のうち、心身機能低下が13項目、活動性低下が12項目でこちらもほぼ同数であった。

機能退行が心身機能の低下から始まった心身機能低下群と活動性低下から始まった活動性低下群に分けて検討したところ、知的障害の心身機能低下群は40名（74.1%）、活動性低下群14名（25.9%）であり、ダウ

ン症と対照的であった（心身機能低下群 3 名、活動性低下群 6 名）。各群の現在年齢、利用開始の年齢、変化し始めた年齢を表 1 に示した。知的障害、ダウン症とも退行は、心身機能低下群の方が活動性低下群より 3 歳程度早く始まっていた（それぞれ 48.1 歳 / 51.1 歳、39.3 歳 / 42.6 歳）。

退行がみられる利用者 1 人当たりの項目数は、知的障害 4.9 項目（心身機能低下群 4.1、活動性低下群 7.2）、ダウン症 2.8 項目（心身機能低下群 2.3、活動性低下群 3.0）であった。なお、知的障害例で多かった退行項目は、h.内科疾患（40.7%）、o.動作緩慢・不活発（33.3%）、q.性格変化（31.5%）、n.歩行不安定（27.8%）、r.集中力低下（27.8%）、c.口腔内の症状（25.9%）、l.皮膚症状（25.9%）であり、ダウン症で多かった項目は a.目の症状（33.3%）、h.内科疾患（33.3%）、q.性格変化（33.3%）であった。知的障害と比較してダウン症の方が退行の始まる年齢が若かった（目の症状：58.5 歳 / 42.3 歳、内科疾患：50.6 歳 / 29.7 歳、性格変化：50.8 歳 / 34.0 歳）。

Ⅲ 利用できなくなった者の状況

1. 施設の概要

最近 10 年間において、退行のために施設利用ができなくなったケースを 1 例でも経験したことがある施設は通授の 66.7%、入授の 80.0%、通更の 56.1%、入更の 83.9%に及び、入所施設の方が通所施設より割合が高かった。その件数は 1 施設あたり、通授で 1.8 名、入授で 2.9 名、通更で 1.8 名、入更で 4.2 名みられ（それぞれ平均）、入所施設が通所施設の 2 倍近くの事例を経験していた。

2. 利用不能例について

延べ人数は、通授で 104 名、入授で 35 名、通更で 41 名、入更で 439 名みられた。死亡のため利用できなくなったケースと死亡以外の理由で利用できなくなったケースに分けると、通授の死亡ケースは 48 名（46.2%）、死亡以外は 56 名（53.8%）、入授の死亡ケースは 10 名（28.6%）、死亡以外は 25 名（71.4%）、通更の死亡ケースは 22 名（53.7%）、死亡以外は 19 名（46.3%）、入更の死亡ケースは 289 名（65.8%）、死亡以外は 150 名（34.2%）であった。

授産施設では死亡以外の理由で利用不可能となることが多く、更生施設では死亡ケースの占める割合が比較的多かった。

以下は、死亡ケースと死亡以外ケースでまとめて記載する。

1) 死亡ケース

死亡ケース（369 例）の原疾患を機能退行の解析と同様に、知的障害（てんかんや身体障害合併を含む）、ダウン症候群、自閉症に分けて検討した。

通授では知的障害 38 名（79.2%）、ダウン症 5 名（10.4%）、自閉症 5 名（10.4%）であり、施設利用開始年齢、施設利用ができなくなった年齢（以下、施設利用終了年齢と略す）を平均年齢±標準偏差で示す（表 4）と、知的障害 31.1±12.5 歳、42.7±11.6 歳、ダウン症 22.6±9.3 歳、37.2±7.1 歳、自閉症 19.2±1.3 歳、34.2±6.4 歳であった。

入授では知的障害 9 名（90%）、ダウン症 1 名（10%）であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 36.0±14.0 歳、47.7±13.6 歳、ダウン症 31 歳、42

歳であった。

通更では知的障害 17 名(84.1%)、ダウン症 4 名 (13.1%)、自閉症 1 名 (2.8%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 21.7±9.0 歳、29.4±11.1 歳、ダウン症 18.3±0.5 歳、29.0±7.3 歳、自閉症 27 歳、28 歳であった。

入更では知的障害 243 名(84.1%)、ダウン症 38 名 (13.1%)、自閉症 8 名 (2.8%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 36.3±14.7 歳、55.7±14.4 歳、ダウン症 28.7±11.4 歳、50.7±13.1 歳、自閉症 24.0±5.9 歳、43.0±10.7 歳であった。死亡のため利用できなくなった自閉症とダウン症は知的障害より統計学的に有意に若かった (p=0.013、p=0.045)。

2)入更の死亡ケースの内訳

男女の割合は知的障害で男性 58%、女性 40%、不明 2%、ダウン症で男性 53%、女性 47%、自閉症で男性 62%、女性 25%、不明 13%であり、いずれも男性の方が多かった。算出した施設の利用年数の平均は、知的障害で 19.2 年、ダウン症で 21.3 年、自閉症で 19.0 年といずれも長かった。

利用できなくなった理由は、知的障害の場合、悪性腫瘍 67 名 (27.6%)、肺炎等の呼吸器疾患 44 名 (18.1%)、循環器疾患 29 名 (11.9%)、脳血管障害 21 名 (8.6%) の順に多かった。ダウン症の場合、肺炎が 8 名 (21.1%)、循環器疾患が 5 名 (13.2%)、腎機能低下が 4 名 (10.5%) の順であった。自閉症では肺炎 2 名 (25%) と外傷 2 名 (25%) がみられた。

3)通更の死亡ケースの内訳

男女の割合は知的障害で男性 47%、女性 53%、ダウン症で男性 80%、女性 20%、自閉症で男性 80%、女性 20%であり、知的障害ではわずかに女性の方が多かった。施設の利用年数の平均は利用できなくなった年齢と利用開始年齢の差により算出した。知的障害で 11.7 年、ダウン症で 14.6 年、自閉症で 15.0 年であった。利用できなくなった理由は知的障害の場合、悪性腫瘍 8 名 (21.1%)、循環器疾患 5 名 (13.2%)、肺炎等の呼吸器疾患 3 名 (7.9%) の順に多かった。ダウン症の場合、悪性腫瘍、循環器疾患、下血、肝炎の悪化、体力低下の進行がそれぞれ 1 名 (20%) であった。自閉症では悪性腫瘍 2 名 (40%)、循環器疾患 1 名 (20%)、急性腸炎 1 名 (20%)、腰痛のための自宅静養中の死亡 1 名 (20%) であった。

4)悪性腫瘍による死亡

悪性腫瘍による死亡は合計 89 ケースあり、死因の 24.1%を占めていた。悪性腫瘍を、種類別、男女別に図 1 に示した。男女比では女性の発生率が若干高かった (69.2%)。腫瘍発生部位は男性では肺 (16.7%)、すい臓 (13.9%)、大腸 (11.1%)、脳 (11.1%) が多く、女性では胃・十二指腸 (15.4%)、大腸 (15.4%)、卵巣 (13.5%) が多かった。白血病は男性で 5.6%、女性で 5.8%を占めており、けっして少なくなかった。

5)死亡以外のケースについて

死亡以外の理由で利用できなくなった 250 ケースの原疾患を知的障害 (てんかんや身体障害合併を含む)、ダウン症、自閉症に分けて検討した。

通授では知的障害 45 名 (80.4%)、ダウン症 6 名 (10.7%)、自閉症 5 名 (8.9%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 29.8±11.5 歳、41.6±13.4 歳、ダウン症 19.8±4.7 歳、35.7±12.5 歳、自閉症 19.3±2.1 歳、34.0±10.7 歳であった。

入授では知的障害 24 名 (96%)、ダウン症 1 名 (4%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 34.9±12.7 歳、50.1±14.4 歳、ダウン症 46 歳、53 歳であった。

通更では知的障害 12 名 (63.2%)、ダウン症 5 名 (26.3%)、自閉症 2 名 (10.5%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 27.8±10.8 歳、37.0±12.4 歳、ダウン症 22.8±7.5 歳、39.2±12.6 歳、自閉症 19.5±0.7 歳、31.0±1.4 歳であった。

入更では知的障害 133 名 (88.7%)、ダウン症 12 名 (8.0%)、自閉症 5 名 (3.3%) であり、施設利用開始年齢、施設利用終了年齢はそれぞれ知的障害 35.9±14.2 歳、52.3±14.3 歳、ダウン症 30.9±13.3 歳、50.1±7.6 歳、自閉症 22.4±10.7 歳、36.2±15.6 歳であった。

6)入更の死亡以外ケースの内訳

男女の割合は知的障害で男性 46%、女性 48%、不明 6%、ダウン症で男性 33%、女性 67%、自閉症で男性 80%、女性 20% であり、知的障害とダウン症で女性が多かった。算出した施設の利用年数の平均は、知的障害で 16.4 年、ダウン症で 19.2 年、自閉症で 13.8 年といずれも 10 年以上であったが、死亡ケースと比較すると、いずれも利用期間

が短かった。

利用できなくなった理由は、知的障害の場合、てんかん 31 名 (23.3%)、問題行動 21 名 (15.8%)、体力低下・歩行能力低下 20 名 (15.0%)、咀嚼・嚥下の問題 13 名 (9.8%) の順に多かった。ダウン症の場合、体力低下・歩行能力低下 3 名 (25.0%)、認知症 2 名 (16.7%) の順に多かった。自閉症では身辺自立低下、問題行動、統合失調症、外傷、導尿が必要となり、対応ができなくなった、がそれぞれ 1 名 (20%) いた。

7)通授の死亡以外ケースの内訳

男女の割合は知的障害で男性 33%、女性 67%、ダウン症で男性 66%、女性 17%、不明 17%、自閉症で男性 80%、女性 20% であり、知的障害で女性の方が多かった。算出した施設の利用年数の平均は、知的障害で 11.6 年、ダウン症で 12.4 年、自閉症で 10.3 年といずれも 10 年以上であり、死亡ケースとの比較では、死亡ケースより死亡以外のケースの方が知的障害とダウン症ではわずかに長かった。

利用できなくなった理由は、知的障害の場合、体力低下・歩行能力低下が 9 名 (20.0%)、問題行動が 8 名 (17.8%)、統合失調症が 7 名 (13.3%) の順であった。ダウン症の場合、体力低下・歩行能力低下、脳血管障害、問題行動、統合失調症、認知症がそれぞれ 1 名 (16.7%) であった。自閉症では問題行動 3 名 (60%)、統合失調症、外傷がそれぞれ 1 名 (20%) であった。

8)男女別障害別年齢の特徴

ダウン症と自閉症を除いた知的障害者の特徴として、通授では、利用できなくなっ

た利用者は女性の方が多く、死亡ケースでは比 1:1.1、死亡以外ケースでは比 1:2 であった。利用できなくなった年齢（±1 標準偏差）は、死亡男性 42.6±13.9 歳、女性 42.9±9.5 歳、死亡以外男性 42.9±16.1 歳、女性 41.0±12.0 歳であり、死亡以外のケースでは男性の方が高かった。

入更では、利用できなくなった利用者は死亡ケースでは男性の方が多く（比 1.4:1）、死亡以外のケースでは女性の方がやや多かった。利用できなくなった年齢（±1 標準偏差）は女性の方が死亡で高く、死亡以外で低かった（死亡男性 54.2±14.3 歳、女性 57.9±14.6 歳、死亡以外男性 53.5±15.1 歳、女性 52.0±13.3 歳）。

IV 回答者の属性

本調査の回答者は、通所施設では指導員がもっとも多く、入所施設では医療関係職種がもっとも多かった。次に多かったのは通所施設では施設管理者、入所施設では指導員であった。

回答者の職種別平均年齢は、指導員：通更 40.1 歳、入更 41.3 歳、通授 41.5 歳、入授 45.0 歳、医療関係職種：入授 45.9 歳、通授 45.9 歳、入更 49.5 歳、通更 50.5 歳、施設管理者：入授 45.4 歳、入更 51.9 歳、通授 55.0 歳、通更 56.0 歳であった。

在職年数は 10 年以上の回答者が過半数を概ね占め、在職年数 10 年以上は、通更の指導員のうち 61.9%、通授の指導員の 45.8%、入更の医療関係職種の 50.0% であった。

D. 考察

今回の検討により知的障害児・者関連施設における機能退行の実態が全国レベルで

明らかになったと言えよう。すなわち、施設別では「更生施設」利用者の機能退行がより多くみられ、利用者のおよそ 10% に何らかの機能退行が出現するものと考えられた。一方、一人あたりの退行項目数は「授産施設」の方が「更生施設」より多いという点も明らかになった。池田らは平成 15 年に全国の通所および入所授産 470 施設に対して青年期成人期知的障害者の退行に関する実態調査を行っており、通所授産ではおよそ 5.6%、入所授産では 4.3% の退行発生頻度を報告している。今回の調査結果は、それらとほぼ同様の結果であった。

退行項目は施設によって特徴的な項目があった。すなわち、心身機能 13 項目のうち、通所施設では体重変動、内科疾患、目の症状が多く、入所施設では内科疾患、目の症状に加えて尿失禁・便失禁、骨・関節症状が多いことが特徴であった。そして、更生施設では嚥下障害と呼吸器症状が授産施設より多かった。

同様に活動性低下 12 項目のうち、歩行不安定、動作緩慢・不活発がいずれの施設種でも多かったが、入更では身辺自立低下、通授では集中力低下、通更では性格変化、入授では記憶力低下が次いで多かった。したがって、今後はこれらをふまえた対応が施設毎、利用形態毎に必要であると思われる。

退行の進行を阻止できた例は全体として少なかった。しかしながら、内科疾患や体重変動については入所施設の方が通所施設より退行阻止の経験が多かった。これは、入所しているため終日、一貫した方針で継続した体重管理ができていたことが背景にあると考えられた。一方、通所授産施設で

は、日常作業の様子などを通じて、目の症状等を早期に発見し、治療に結びつけることができたケースがあった。手術や眼鏡使用などの介入により、生活制限を最小限にとどめ、症状の悪化を阻止できたケースの割合が入所施設より高く、施設種別の特徴があると考えられた。

施設利用者は男性の方が多く、平均年齢も男性の方が高いが、施設利用できなくなったケースに関しては必ずしも同じ傾向ではなかった。例えば通所授産施設のダウン症と自閉症を除いた知的障害者の特徴として、利用者の内訳として男性の方が1.5倍女性より多かったが、利用できなくなった利用者は女性の方が多く、また利用できなくなった年齢は死亡以外のケースでは男性の方が高く（男性42.9±16.1歳、女性41.0±12.0歳）、利用者の平均年齢男性34.3歳、女性35.4歳と対照的であった。

入所更生施設では利用者の内訳として男性の方が1.3倍女性より多かったが、利用できなくなった利用者は死亡ケースでは男性の方が多かったものの（比1.4:1）、死亡以外のケースでは女性の方がやや多かった。利用できなくなった年齢は例外的に死亡以外ケースで男性の平均年齢が若干高かった。

このように、死亡以外の理由で利用できなくなったケースは女性が男性より多く、かつ若いという傾向があり、全体の利用者数として女性は少ないものの、性差を考慮したきめ細やかな対応が必要であることを示唆する。とくに女性で指摘されることが多かった項目は問題行動であった。したがって、問題行動に対する投薬や精神の安定を保つための個室隔離、そして終日のマンツーマン対応による保護などの対応が女性

に対しては有効である可能性がある。

死亡ケースでは利用できなくなった理由として悪性腫瘍（24%）が最も多かった。悪性腫瘍の男女別の種類の分布を本邦死因調査と比較すると、男性の知的障害者では胃がん、肝がん、肺がんが少なく、すい臓がん、脳腫瘍、白血病が比較的多かった。女性の知的障害者では、すい臓がん、肺がん、乳がんが少ないものの、咽頭がん、卵巣がん、脳腫瘍、白血病が多かった。

悪性腫瘍により利用できなくなったケースのうち、気づかれず、発見が遅れ、治療が不能であったケースが89名中29ケース（32.6%）あった一方、健診で発見されたケースは8ケース（9.0%）であった。悪性腫瘍を早期発見し、早期治療に結びつけることが健康増進に重要であると考えられた。しかし、知的障害のため、家族の希望などのため、積極的な治療がなされなかったケースが8ケースもあり、複雑な背景がうかがえた。

E. 結論

全国の知的障害関連施設に対して、施設における健康増進活動と利用者の機能退行の実態を調査した。施設利用者が様々な日常作業や活動に参加していることが判明し、健康診断はほぼ全ての施設で実施されており、歯科検診の実施頻度も高かった。各施設とも退行予防策として、異常の早期発見・早期対応、適度な運動、食事管理の重要性が認識されていた。

利用者の健康状況変化についてはICFの観点から解析した。機能退行経験施設は75%にも及んだ。また、利用者総数からみた退行頻度は、4.9～9.9%に達し、早急に対

応を考慮すべき事態であることがうかがえた。

「心身機能低下」のうち体重変動、内科疾患、目の症状、尿・便失禁、骨・関節症状が、「活動性低下」では歩行不安定、動作緩慢、身辺自立低下、集中力低下、性格変化、記憶力低下がとくに重要な項目であった。退行出現年齢は項目によって異なるものの、知的障害者では40歳代、自閉症者では30歳代からみられる傾向があった。また、ダウン症では「記憶力低下」「身辺自立の低下」「骨・関節症状」「歩行不安定」が数カ月以内に退行する例が多かった。退行阻止につながる要因として、内科疾患の早期診断と治療、体重変動の管理があげられた。そして、男女における機能退行の特徴も明らかとなったため、性差を考慮した対応も今後は求められると思われた。

研究協力者

稲垣真澄、小林朋佳：国立精神・神経センター精神保健研究所

参考文献

- 1) 障害者福祉研究会編. ICF 国際生活機能分類：国際障害分類改訂版. 東京. 中央法規出版, 2002.
- 2) 社団法人 日本知的障害福祉連盟. 知的障害者の退行の発見・予防・ケア. 東京, 2005.
- 3) 厚生労働省 厚生労働省統計表データベースシステム
<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/youran/index-kousei.html>

- 4) 池田由紀江 「退行を示した青年期・成人期知的障害者に対する地域生活支援と社会参加の促進事業」報告書 平成15年度独立行政法人福祉医療機構助成事業

F. 研究発表

1.論文発表

- 1) 加我牧子, 稲垣真澄：医師のための発達障害児・者 診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際 診断と治療社 2006
- 2) 稲垣真澄, 羽鳥誉之, 井上祐紀, 加我牧子：発達障害のモダリティ別事象関連電位 自閉症スペクトラムにおける特徴 臨床脳波 2007; 49: 12-17..
- 3) 稲垣真澄：てんかんと AD/HD てんかん講座より ともしび 日本てんかん協会東京都支部 2006年12月号 18-21.

2.学会発表

- 1) 小林朋佳, 渥美 聡, 蔵野亘之, 小峯 聡, 田沼直之, 近田照己, 八谷靖夫, 浜野喜美子, 内山 晃, 倉田清子, 稲垣真澄, 加我牧子：重症心身障害児・者の機能退行－新生児期無酸素性脳症後遺症における摂食機能の検討－第48回日本小児神経学会 浦安 平成18年6月1日

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし

表 1 施設別退行出現年齢のまとめ

施設	知的障害					ダウン症候群					自閉症+MR				
	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	平均退行項目数	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	平均退行項目数	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	平均退行項目数
入所 授産	40	53.5歳 (11.3)	36.6歳 (12.7)	48.1歳 (10.5)	4.1	3	42.3歳 (12.1)	23.0歳 (6.1)	39.3歳 (12.7)	2.3	0				
		14	54.5歳 (9.9)	38.5歳 (11.5)	51.1歳 (11.5)	7.2	6	46.5歳 (8.9)	30.2歳 (14.4)	42.6歳 (10.4)	3	0			
入所 更生	689	54.3歳 (13.3)	34.2歳 (13.1)	49.5歳 (13.7)	2.7	93	48.1歳 (11.0)	27.2歳 (12.3)	44.4歳 (11.5)	3.4	29	37.6歳 (10.7)	22.5歳 (6.0)	31.5歳 (10.2)	2
		165	52.6歳 (14.0)	34.6歳 (13.2)	47.3歳 (15.4)	3.2	25	47.2歳 (9.6)	27.0歳 (11.4)	38.9歳 (12.7)	3.2	18	38.6歳 (10.4)	23.9歳 (7.1)	33.0歳 (10.1)
通所 授産	230	43.5歳 (11.7)	27.9歳 (11.1)	39.8歳 (12.7)	2.1	51	38.6歳 (8.1)	21.3歳 (5.8)	33.9歳 (8.9)	2.3	15	34.5歳 (6.2)	20.3歳 (4.5)	31.1歳 (8.2)	1.9
		87	43.0歳 (10.8)	26.4歳 (9.8)	38.4歳 (10.3)	2.8	21	41.1歳 (9.3)	25.8歳 (10.0)	36.6歳 (12.5)	3.6	12	36.0歳 (11.1)	22.0歳 (7.0)	34.7歳 (12.0)
通所 更生	120	36.2歳 (10.5)	23.8歳 (9.3)	31.8歳 (10.4)	1.9	18	35.8歳 (8.5)	21.6歳 (7.0)	31.4歳 (8.7)	1.9	6	33.0歳 (2.7)	22.2歳 (5.7)	26.4歳 (4.1)	1.3
		25	35.2歳 (8.9)	21.8歳 (10.5)	28.0歳 (7.6)	2	8	39.3歳 (12.6)	23.9歳 (8.4)	39.0歳 (12.5)	2.5	2	32.5歳 (10.6)	17.5歳 (0.7)	29.5歳 (6.4)

表 2 入所更生施設における機能退行項目と進行状況

施設名	知的障害				ダウン症候群				自閉症+MR						
	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	進行状況(数ヶ月/数年/10年/不明)	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	進行状況(数ヶ月/数年/10年/不明)	N	現年齢	利用開始年齢	退行出現年齢	進行状況(数ヶ月/数年/10年/不明)
a 目の症状	142	57.6歳 (12.5)	36.3歳 (12.2)	50.2歳 (13.5)	16%/47%/13%/19%	47	51.7歳 (10.6)	29.7歳 (12.4)	43.9歳 (10.8)	4%/55%/19%/17%	5	34.2歳 (6.5)	19.4歳 (3.6)	32.0歳 (7.4)	80%/0%/0%/20%
d 薬下障害	140	58.9歳 (14.5)	35.9歳 (12.9)	52.5歳 (15.1)	22%/60%/11%/5%	23	52.8歳 (11.6)	32.0歳 (13.9)	45.9歳 (14.5)	22%/39%/21%/9%	2	63.5歳 (21)	30.0歳 (4.2)	52.5歳 (0.7)	0%/0%/50%/50%
f 消化器症状	84	53.0歳 (13.0)	31.5歳 (12.7)	45.4歳 (14.3)	21%/45%/10%/14%	4	38.5歳 (10.8)	22.8歳 (7.3)	29.3歳 (7.8)	0%/50%/0%/50%	8	44.0歳 (15.2)	22.4歳 (7.1)	37.8歳 (14.3)	25%/38%/25%/12%
h 内科疾患	221	55.1歳 (11.7)	35.5歳 (12.4)	47.9歳 (12.4)	19%/38%/15%/26%	37	50.3歳 (11.0)	28.3歳 (13.0)	43.7歳 (11.2)	16%/51%/11%/16%	11	39.2歳 (13.5)	23.8歳 (7.7)	33.4歳 (13.1)	45%/18%/0%/27%
i 尿・便失禁	165	58.6歳 (3.9)	35.9歳 (12.6)	52.6歳 (13.8)	19%/56%/13%/6%	29	55.6歳 (9.3)	32.2歳 (13.1)	48.9歳 (11.2)	16%/44%/20%/12%	2	38.0歳 (5.7)	21.5歳 (6.4)	36歳	0%/100%/0%/0%
k 体重変動	88	52.1歳 (13.4)	32.2歳 (12.9)	46.4歳 (13.3)	35%/52%/8%/1%	13	48.9歳 (12.3)	25.3歳 (12.5)	43.3歳 (12.0)	15%/55%/15%/15%	10	35.1歳 (13.1)	23.5歳 (7.2)	30.6歳 (13.1)	40%/40%/0%/10%
m 骨・関節症	176	58.5歳 (12.5)	37.3歳 (12.8)	52.6歳 (12.9)	21%/46%/14%/15%	23	53.7歳 (9.6)	29.1歳 (12.6)	47.7歳 (13.3)	35%/39%/17%/4%	2	36.5歳 (6.4)	19.0歳 (5.7)	31歳	0%/0%/0%/50%
n 歩行不安定	223	56.1歳 (13.1)	35.0歳 (12.7)	49.7歳 (13.5)	16%/61%/17%/2%	27	54.9歳 (8.6)	32.8歳 (13.3)	47.4歳 (13.3)	31%/57%/8%/4%	2	62歳	27歳	52歳	0%/0%/100%/0%
o 動作障害・不活発	33	55.6歳 (13.6)	36.6歳 (12.7)	50.3歳 (13.9)	17%/57%/14%/8%	24	46.6歳 (10.0)	22.7歳 (8.5)	42.6歳 (13.4)	29%/42%/21%/8%	4	45.3歳 (17.3)	25.8歳 (8.7)	43.7歳 (18.5)	0%/100%/0%/0%
p 問題行動	77	46.0歳 (12.0)	29.1歳 (10.7)	38.9歳 (13.7)	25%/36%/12%/22%	7	51.3歳 (4.5)	30.4歳 (13.1)	47.6歳 (6.3)	14%/71%/0%/0%	15	37.6歳 (8.9)	22.2歳 (4.1)	31.6歳 (8.3)	27%/47%/20%/0%
s 記憶力低下	50	64.8歳 (9.1)	41.3歳 (11.2)	59.5歳 (8.5)	18%/54%/14%/10%	19	56.7歳 (8.4)	34.3歳 (10.7)	50.4歳 (6.7)	37%/37%/26%/0%	4	54.3歳 (16.9)	32.3歳 (4.9)	47.3歳 (16.4)	25%/50%/0%/25%
u 身辺自立の低下	129	57.6歳 (14.8)	35.6歳 (13.2)	51.4歳 (15.5)	22%/50%/19%/5%	26	53.9歳 (11.5)	35.0歳 (13.1)	47.0歳 (12.2)	42%/31%/19%/4%	3	45.7歳 (16.9)	26.0歳 (7.0)	43.0歳 (14.1)	0%/67%/0%/33%
v コミュニケーション機能低下	52	54.4歳 (15.5)	32.3歳 (10.2)	49.8歳 (17.5)	23%/52%/21%/2%	10	48.6歳 (13.4)	24.6歳 (14.7)	40.1歳 (12.5)	20%/40%/30%/10%	5	45.8歳 (16.4)	24.4歳 (6.4)	38.6歳 (17.2)	0%/60%/20%/20%

表 3 通所授産施設における機能退行項目と進行状況

施設名	通所授産	知的障害				ダウン症候群				自閉症+MR						
		N	現年齢 (平均)	利用開始 年齢 (平均)	退行出現 年齢 (平均)	進行状況(数年/ 10年/不明)	N	現年齢 (平均)	利用開始 年齢 (平均)	退行出現 年齢 (平均)	進行状況(数年/ 10年/不明)	N	現年齢 (平均)	利用開始 年齢 (平均)	退行出現 年齢 (平均)	進行状況(数年/ 10年/不明)
a	目の症状	33	47.0歳 (14.2)	31.2歳 (11.5)	39.3歳 (11.2)	21%/52%/15%/6%	24	41.3歳 (8.9)	24.2歳 (8.8)	36.0歳 (9.8)	17%/45%/21%/17%	2	53.0歳 (12.7)	30.0歳 (12.7)	48.5歳 (9.2)	0%/100%/0%/0%
b	耳の症状	23	53.5歳 (10.7)	32.7歳 (12.8)	45.9歳 (11.4)	9%/78%/4%/4%	13	46.2歳 (8.1)	24.5歳 (8.1)	41.5歳 (9.1)	20%/73%/7%/0%	2	57.0歳 (7.1)	39歳 (7.1)	53.0歳 (2.8)	50%/50%/0%/0%
c	口腔内の 症状	37	49.5歳 (9.7)	31.6歳 (10.5)	40.9歳 (10.8)	8%/51%/27%/11%	11	38.3歳 (4.8)	20.4歳 (3.4)	31.1歳 (4.1)	0%/73%/18%/9%	2	51.0歳 (15.6)	32.0歳 (9.9)	55歳 (8.4)	0%/50%/50%/0%
h	内科疾患	76	42.5歳 (10.5)	26.7歳 (9.5)	35.1歳 (10.4)	12%/66%/11%/5%	18	37.8歳 (5.1)	20.3歳 (2.9)	32.7歳 (6.7)	22%/67%/0%/11%	6	34.8歳 (6.4)	22.7歳 (7.7)	30.8歳 (8.4)	33%/67%/0%/0%
i	尿・便失禁	30	50.6歳 (11.2)	33.2歳 (12.7)	45.2歳 (12.6)	20%/33%/20%/23%	6	44.8歳 (6.8)	20.0歳 (3.7)	38.6歳 (12.4)	0%/50%/50%/0%	1	25歳 (6.4)	23歳 (2.3)	25歳 (7.9)	0%/100%/0%/0%
k	体重変動	69	40.2歳 (11.1)	25.0歳 (8.8)	34.3歳 (11.5)	20%/49%/23%/3%	13	37.8歳 (9.9)	21.3歳 (5.4)	30.2歳 (12.9)	31%/54%/15%/0%	11	33.5歳 (6.4)	19.1歳 (2.3)	27.9歳 (7.9)	55%/27%/0%/18%
m	骨・関節症 症状	31	45.1歳 (12.5)	27.5歳 (12.0)	39.5歳 (13.5)	10%/58%/19%/13%	3	42.7歳 (7.1)	18.0歳 (2.0)	40.0歳 (7.2)	67%/33%/0%/0%	1	24歳 (6.0)	20歳 (2.0)	23歳 (7.2)	100%/0%/0%/0%
n	歩行不安定	43	47.3歳 (12.7)	32.7歳 (14.0)	42.5歳 (12.9)	21%/47%/26%/5%	8	40.3歳 (5.2)	20.0歳 (2.7)	44.0歳 (6.9)	50%/37%/13%/0%	1	31歳 (6.0)	18歳 (1.8)	27歳 (7.2)	0%/100%/0%/0%
o	動作緩慢・ 不活発	58	44.4歳 (10.4)	27.5歳 (11.0)	38.6歳 (12.2)	17%/60%/19%/0%	22	39.3歳 (7.3)	21.9歳 (6.0)	34.3歳 (9.1)	9%/68%/23%/0%	3	41.0歳 (19.0)	26.7歳 (11.0)	28.0歳 (2.7)	0%/100%/0%/0%
p	問題行動	26	40.9歳 (11.2)	26.7歳 (11.0)	36.8歳 (12.4)	31%/54%/4%/12%	3	37.3歳 (7.7)	23.3歳 (8.4)	34.3歳 (8.1)	0%/100%/0%/0%	4	30.5歳 (5.7)	19.5歳 (1.7)	25.0歳 (4.2)	25%/75%/0%/0%
q	性格変化	28	41.8歳 (11.4)	27.0歳 (12.0)	37.5歳 (12.5)	18%/61%/7%/11%	8	45.4歳 (9.4)	31.9歳 (9.6)	39.0歳 (12.3)	9%/73%/9%/9%	3	39.7歳 (19.7)	28.0歳 (9.5)	28.7歳 (9.1)	0%/100%/0%/0%
r	集中力低下	46	45.1歳 (11.9)	29.4歳 (11.3)	39.4歳 (11.3)	15%/65%/13%/4%	17	41.6歳 (7.1)	23.9歳 (8.0)	36.1歳 (8.5)	6%/82%/6%/6%	1	34歳 (6.0)	18歳 (1.8)	26歳 (7.6)	0%/100%/0%/0%
u	身辺自立の 低下	21	46.7歳 (12.3)	27.6歳 (10.7)	40.7歳 (13.0)	24%/52%/19%/5%	3	43.3歳 (14.0)	24.7歳 (6.0)	39.3歳 (15.2)	67%/33%/0%/0%	1	25歳 (6.0)	23歳 (2.3)	25歳 (7.5)	0%/100%/0%/0%

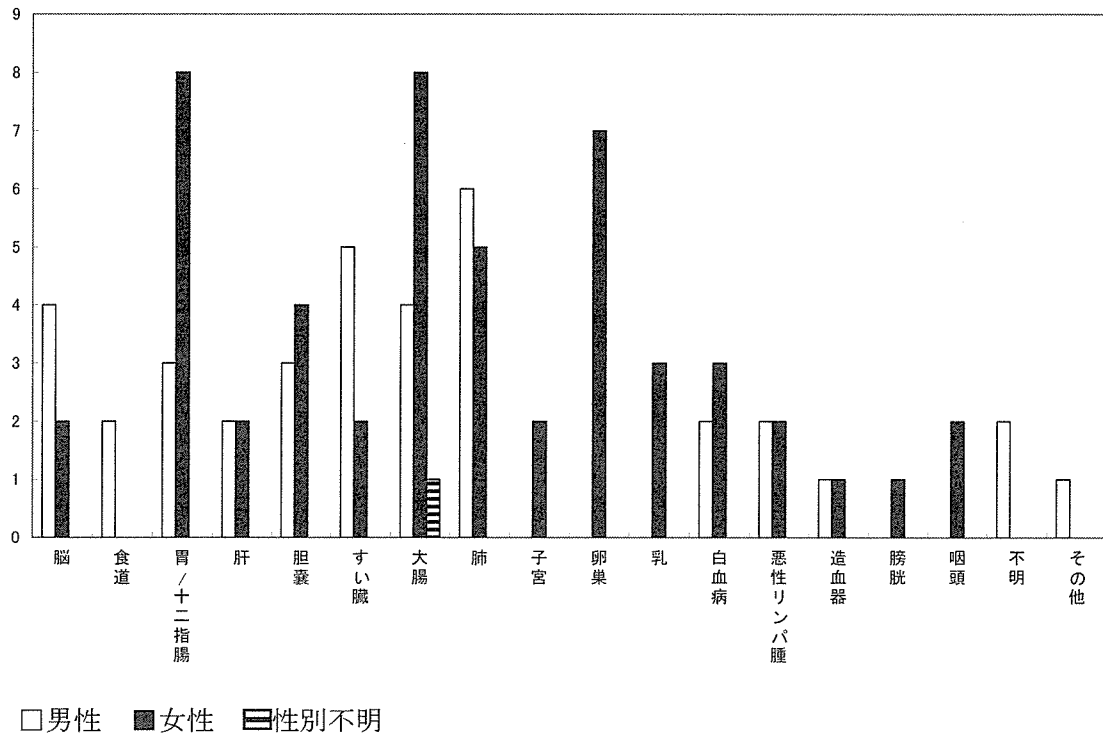
表 4 施設別利用不能例のまとめ

施設名	N	知的障害		N	ダウン症候群		N	自閉症+MR	
		利用終了 年齢	利用年数		利用終了 年齢	利用年数		利用終了 年齢	利用年数
通所授産 死亡	38	42.7 (11.6)歳	11.7(7.0) 年	5	37.2(7.1) 歳	14.6(9.2) 年	5	34.2(6.4) 歳	15.0(5.7) 年
	45	41.7 (13.4)歳	11.6(7.2) 年	6	35.7 (12.5)歳	12.4 (10.4)年	5	34.0 (10.7)歳	10.3(4.9) 年
入所授産 死亡	9	47.7 (13.6)歳	43.0 (10.9)年	1	42歳	11年	0		
	24	50.1 (14.4)歳	15.2 (10.6)年	1	53歳	7年	0		
通所更生 死亡	17	29.4 (11.1)歳	7.6(6.9) 年	4	29.0(7.3) 歳	10.8(7.6) 年	1	28歳	1年
	12	37.0 (12.4)歳	9.3(4.5) 年	5	39.2 (12.6)歳	16.4 (12.6)年	2	31.0 (10.7)歳	11.5(0.7) 年
入所更生 死亡	243	55.7 (14.4)歳	19.2 (11.0)年	38	50.7 (13.1)歳	21.3 (13.3)年	8	43.0 (10.7)歳	19.0(8.7) 年
	133	52.3 (14.3)歳	15.3 (10.5)年	12	50.1(7.6) 歳	19.3 (12.5)年	5	36.2 (15.6)歳	13.8 (10.9)年

() は 1 標準偏差

図 1 知的障害者死亡例における悪性腫瘍発生部位

(人)



I. 貴施設・作業所（以下、貴施設）の利用者の内訳、特徴、利用者に対する健康増進活動についてお尋ねします。

空欄は直接記入していただき、あてはまるものには○をつけて下さい。お分かりになる範囲で記入をお願いします。

- (1) 貴施設の種別を教えてください。該当するものひとつに○をつけて下さい。
a. 知的障害者更生施設(通所) b. 知的障害者更生施設(入所) c. 知的障害者授産施設(通所) d. 知的障害者授産施設(入所) e. その他 _____
- (2) 貴施設の定員、現員、設立年度を教えてください。定員 _____ 人 現員 _____ 人 設立年度 _____ 年
- (3) 貴施設の所在地はどちらですか。該当するものひとつに○をつけて下さい。
a. 北海道 b. 東北 c. 北陸 d. 甲信越 e. 関東 f. 東海 g. 近畿 h. 中国 i. 九州・沖縄
- (4) 現在の利用者の年齢層を教えてください。
a. 20歳未満 (男 _____ 人, 女 _____ 人) b. 20～29歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) c. 30～39歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人)
d. 40～49歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) e. 50～59歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) f. 60歳以上 (男 _____ 人, 女 _____ 人)
最低年齢から最高年齢 男性 _____ 歳～ _____ 歳, 女性 _____ 歳～ _____ 歳
お分かりでしたら教えてください。平均年齢 _____ 歳 男女別平均年齢 男性 _____ 歳, 女性 _____ 歳
- (5) 現在の利用者の入所時年齢を教えてください。
a. 20歳未満 (男 _____ 人, 女 _____ 人) b. 20～29歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) c. 30～39歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人)
d. 40～49歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) e. 50～59歳 (男 _____ 人, 女 _____ 人) f. 60歳以上 (男 _____ 人, 女 _____ 人)
最低入所時年齢から最高入所時年齢 男性 _____ 歳～ _____ 歳, 女性 _____ 歳～ _____ 歳
お分かりでしたら教えてください。平均入所時年齢 _____ 歳 男女別平均入所時年齢 男性 _____ 歳, 女性 _____ 歳
- (6) 現在の貴施設利用者のうち、職歴のある（あった）方はおおよそ何人ですか。（職歴とは、一般就労のことを言います。）
男性 _____ 人, 女性 _____ 人
- (7) 利用者は貴施設でどのようなことに取り組んでいますか。該当する項目に○をつけて下さい。（複数回答可）
（ a.縫製作業・手芸 b.陶芸等の創作活動 c.箱折り・袋語作業等の軽作業 d.木工・クリーニング等の機械作業 e.パンや菓子作り等食品加工作業
f.農作業 g.散歩・マラソン等の運動 h.販売・外出訓練等施設外での活動 i.理学療法・作業療法等 j.入浴 k.その他 _____ ）
- (8) 利用者の日常の健康状態を把握するため、採用しているチェック項目に○をつけて下さい。（複数回答可）
（ a.体温 b.顔色 c.食欲 d.排泄(尿・便)状況 e.てんかん発作の頻度 f.本人に健康状態を尋ねる g.その他 _____ ）

裏にもごさいます。ご協力お願いします。

(9) 貴施設では、医師診察・検診車等による健康診断（検診）をされていますか。（はい _____ 回/年、 いいえ _____）

はいの場合、ほぼ全員に実施している項目に○をつけて下さい。（複数回答可）

（ a. 身体計測 b. 血圧測定 c. 採血 d. 検尿 e. 心電図 f. レントゲン g. ガン検診 h. 眼科 i. 耳鼻科 j. その他 _____ ）

最もよく指摘される異常はどの項目ですか。該当するものひとつに○をつけて下さい。

（ a. 身体計測 b. 血圧測定 c. 採血 d. 検尿 e. 心電図 f. レントゲン g. ガン検診 h. 眼科 i. 耳鼻科 j. その他 _____ ）

(11) 歯科検診をされていますか。（はい _____ 回/年、 いいえ _____）

はいの場合、検診の結果、歯科治療を受けたおおよその人数を教えてください。 _____ 人/年。

治療を受けた施設の種類に○をつけて下さい。（複数回答可）（ a. 歯科医院 b. 大学病院 c. その他 _____ ）

(12) 貴施設には、嘱託医はいますか。（はい _____ 人、 いいえ _____）（嘱託医の専門科目 _____）

(13) 貴施設には、看護師はいますか。（はい _____ 人、 いいえ _____）

(14) 貴施設では、医療的ケアを行っていますか。（はい、 いいえ _____）

はいの場合、該当する項目に○をつけて下さい。（複数回答可）

（ a. 内服薬の投薬 b. 坐薬の挿入 c. 口や鼻からの吸引 d. 気管内からの吸引 e. 注入（水分・栄養） f. 酸素投与 g. その他 _____ ）

施設内医療的ケアを主にどなたが担当されていますか。該当者ひとつに○をつけて下さい。

（ a. 看護師 b. その他の医療関係職種 c. 指導員 d. その他 _____ ）

(15) 貴施設では、連携している医療機関はありますか。（例えば緊急時対応のための）。（あり、 なし _____）

ある場合はその医療機関の種類を教えてください。（複数回答可）（ a. 大学病院 b. 総合病院 c. その他の病院 d. 診療所 e. その他 _____ ）

よろしければ実際のご経験をお書き下さい。

--

(16) 貴施設では、検診以外に行っている健康増進活動はありますか。（あり、 なし _____）

ある場合は具体的な手段や方法、その成果を教えてください。（例 各家庭で不要になった健康器具の活用、集団での体操、散歩や外出の奨励等）

--

II. 貴施設利用者の健康状態の変化について、お尋ねします。

(1) この10年間で健康状態の変化がみられた（みられています）利用者はいいますか。（はい 〃 人10年, いいえ 〃）

ここでいう「健康状態の変化」とは、出来ていたことができなくなる, 下記の症状が新たに現れる, あるいは下記の症状が悪化することをさします。

■ 変化した症状

- a.目の症状（視力低下・白内障・緑内障等） b.耳の症状（最近, 大きな声にしか反応しなくなった・中耳炎等）
- c.口腔内の症状（歯槽膿漏・未治療の虫歯の増加等） d.嚥下障害（飲み込みにくくなった等） e.呼吸器症状（咳や痰の増加・喘息・肺炎等）
- f.消化器症状（嘔吐・腹痛等） g.循環器症状（高血圧・動悸・息切れ等） h.内科疾患（がん・糖尿病・高脂血症・痛風・肝機能障害等）
- i.尿失禁・便秘禁 j.生理不順・生理がない・更年期症状（いらいら・のぼせ等） k.体重変動（1年に3kg以上）
- l.皮膚症状（水虫・湿疹・かゆみ等） m.骨・関節症状（関節痛・骨折・骨粗鬆症等） n.歩行不安定
- o.動作緩慢・不活発（意欲, 体力や気力の低下・うつ等） p.問題行動（激しい行動の変化等） q.性格変化（がんこ・怒りっぽい等）
- r.集中力低下（日課や作業の遂行の低下等） s.記憶力低下（忘れっぽい・痴呆等） t.知能低下（読み書き計算能力の低下等）
- u.身辺自立の低下（食餌摂取・更衣・入浴ができなくなった等） v.コミュニケーション・対人関係を維持する能力の低下（発声・会話の減少等）
- w.物品購入・金銭管理の能力低下 x.家庭生活能力（調理・掃除等）の低下 y.社会参加能力の低下（地域や社会の活動に参加できなくなった等） z.その他

健康状態の変化がみられた（みられている）利用者について一人ずつ, 下記記入例を参考に, ○をつけて線で結び, それらの症状を記載して下さい。

【記入例】

性別	現在の年齢	入所時年齢	手帳の種類	等級	障害名 病名	変化した 症状	変化の状況	症状の 程度	詳しい症状・治療の経過 変化した症状のために生活上困っていること それに伴う工夫・配慮など なぜ、気付いたかなど 入院歴、手術の内容など
男	32歳	18歳	a.知的 b.身体 c.精神 d.なし	Bの2級	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他	a.数ヶ月で悪化 b.数年で悪化 c.10年単位で悪化 d.不明	a. なし b. 軽度 c. 重度 d. 不明	25歳頃歯石が多いことを指摘され, 開業歯科医院で歯石を除去した。歯科衛生士による指導を受けて, 口腔ケアを継続したが, 歯槽膿漏を併発し, 27歳頃に大臼歯が1本抜けた。28歳時, 突然尿失禁が出現した。主治医に相談し, 精査したが, 原因は特定できず, 日中もしばしば尿失禁がみられたため, 3ヶ月くらいの経過で常時紙おむつを使用するようになった。振り返ると, 20歳頃より, つまづきやすくなり, 歩行が不安定になったと思われる。その後, 徐々に歩く速度が遅くなり, 独歩可能な距離が減っている。	

裏にもございます。ご協力お願いします。

性別	現在の年齢	入所時年齢	手帳の種類	等級	障害名 病名	変化し はじめ た年齢 (年代)	変化した症状	変化の状況	症状の 程度	詳しい症状・治療の経過 変化した症状のために生活上困っていること それに伴う工夫・配慮など なぜ、気付いたかなど 入院歴、手術の内容など
			a. 知的 b. 身体 c. 精神 d. なし		a. 知的障害 b. ダウン症 c. 自閉症 d. てんかん e. 身体障害 f. その他			a. 数ヶ月で悪化 b. 数年で悪化 c. 10年単位で悪化 d. 不明	a. なし b. 軽度 c. 重度 d. 不明	<p>軽度：ほとんど気づかれず、 あるいは経過観察されていた 重度：誰が見ても明らか、あ るいは介入・処置・治療を要 した</p>
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	

性別	現在の年齢	入所時年齢	手帳の種類	等級	障害名 病名	変化し はじめ た年齢 (年代)	変化した症状	変化の状況	症状の 程度	詳しい症状・治療の経過 変化した症状のために生活上困っていること それに伴う工夫・配慮など なぜ、気付いたかなど 入院歴、手術の内容など
			a. 知的 b. 身体 c. 精神 d. なし		a. 知的障害 b. ダウン症 c. 自閉症 d. てんかん e. 身体障害 f. その他			a. 数ヶ月で悪化 b. 数年で悪化 c. 10年単位で悪化 d. 不明	a. なし b. 軽度 c. 重度 d. 不明	<p>軽度：ほとんど気づかれず、 あるいは経過観察されていた 重度：誰が見ても明らか、あ るいは介入・処置・治療を要 した</p>
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	

裏にもございます。ご協力お願いします。

性別	現在の年齢	入所時年齢	手帳の種類	等級	障害名	変化しはじめた年齢(年代)	変化した症状	変化の状況	症状の程度	詳しい症状・治療の経過 変化した症状のために生活上困っていること それに伴う工夫・配慮など なぜ、気付いたか 入院歴、手術の内容など
			a. 知的 b. 身体 c. 精神 d. なし		a. 知的障害 b. ガン症 c. 自閉症 d. てんかん e. 身体障害 f. その他			a. 数ヶ月で悪化 b. 数年で悪化 c. 10年単位で悪化 d. 不明	a. なし b. 軽度 c. 重度 d. 不明	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	
男 女	歳	歳	a b c d		a b c d e f		a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z _ _	a b c d	変化前 a b c d 変化後 a b c d	

軽度：ほとんど気づかれず、あるいは経過観察されていた
 あるいは経過観察されていなかった
 重度：誰が見ても明らかか、あるいは介入・処置・治療を要した

必要があれば、記入欄を追加して下さい。

(2) この10年間に、健康状態が変化したために、貴施設を利用できなくなった方(死亡を含む)は、いらっしゃいますか。(あり、なし) いらっしゃる場合、その経緯について以下の欄に記入して下さい。

入所時 年齢	退所時 年齢	性別	障害名 病名	利用できなくなった原因・病名	利用できなくなった経緯
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		
歳	歳	男 女	a.知的障害 b.ダウン症 c.自閉症 d.てんかん e.身体障害 f.その他		

必要な場合、記入欄を追加して下さい。

裏にもございます。ご協力お願いします。

Ⅲ. 回答して下さった方について、お尋ねします。

(1) あなたの職種、性別、年齢、貴施設での在職年数を、お教え下さい。(複数回答可)

- | | | | | | | | |
|--------------|----------------|--------------|---------------|----------|-----------|-----------|-----------|
| a. 施設管理者 | (性別 a. 男 b. 女) | (年齢 _____ 歳) | (在職年数 a. 5年未満 | b. 5-10年 | c. 10-15年 | d. 15-20年 | e. 20年以上) |
| b. 指導員 | (性別 a. 男 b. 女) | (年齢 _____ 歳) | (在職年数 a. 5年未満 | b. 5-10年 | c. 10-15年 | d. 15-20年 | e. 20年以上) |
| c. 医療関係職種 | (性別 a. 男 b. 女) | (年齢 _____ 歳) | (在職年数 a. 5年未満 | b. 5-10年 | c. 10-15年 | d. 15-20年 | e. 20年以上) |
| d. その他 _____ | (性別 a. 男 b. 女) | (年齢 _____ 歳) | (在職年数 a. 5年未満 | b. 5-10年 | c. 10-15年 | d. 15-20年 | e. 20年以上) |

(2) 利用者の健康状態に変化がみられた場合、どのように対応されていますか。具体的に教えてください。

(例えば、医療的ケアが必要になった場合や行動障害がひどくなった場合)

--

(3) 健康状態を改善させる、あるいは悪化を予防するためには、どのような対応が有効であるとお考えですか。具体的な方法や実際のご経験をお教え下さい。

--

(4) 利用者の保護者に健康問題が生じた場合、どのように対応されていますか。具体的な対応法について、お教え下さい。

--

(5) 利用者を医療機関等に連れていくことはありませんか。それは、どのような場合が多いですか。お教え下さい。

--

これで、アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。